

広告

企画・制作
(株)読売鹿児島広告社

鹿児島大学病院
てんかんセンター長(脳神経外科)

花谷 亮典氏に聞く

「てんかん」広がる治療の選択肢

有病率約1%と比較的に高い病気である「てんかん」。しかし、様々な症状があることから区別がつきにくく、社会の理解が進んでいないのが現状だ。2013年にてんかんの包括的な治療を目的に設立された鹿児島大学病院てんかんセンターの花谷亮典センター長(脳神経外科)に「てんかん」について症状や治療などを聞いた。

■「てんかん」とはどのような病気ですか。
てんかんは、脳の神経細胞が突然異常な興奮を起こすことで規則正しいリズムが崩れ、様々な症状を繰り返す病気です。特に、5歳ぐらいまでの小児と65歳以上の高齢者に多く発症します。症状は、ひきつけや痙攣、ぼーっとして意識が遠のく、異常行動、手の痺れ、手のつっぱり、物がゆがんで見える、さらには胃がむかむかする、背中がぞくぞくするといった症状など、実に多岐にわたります。こうした発作の多くは、長くても1〜2分で治まります。

■小児、特に乳児期に発症する場合は、奇形を含めた脳の形成異常、出生時の障害、ウイルス感染などの原因が考えられます。高齢者では脳血管障害や脳の変性などが原因になることが多く、高齢化社会の進展とともに、今後、高齢者のてんかん患者は増加すると予想されます。

てんかん発作には、部分発作(焦点発作)と全般発作があります。部分発作は、例えば手や足が突っ張る症状は運動領域近く、物がゆがんで見える症状は後頭葉の視覚領域、ぼーっとして意識を失う症状は側頭葉の内側にある海馬など、脳の特定の場所から始まっていることが推定できる発作をいいます。

これに対して全般発作は、突然大きな痙攣を生じたり、短時間ふっと意識が途絶えるなど、脳

全体が興奮して生じる発作を指します。

■「こうしたてんかん」に対する治療にはどのような方法があるのですか。
てんかんの治療は、抗てんかん薬による薬物療法が基本です。大半の患者さんは脳神経の興奮を抑える1〜2種類の薬で発作を抑えることができます。

最近では副作用の少ない抗てんかん薬も増え、薬の選択肢が広がっています。てんかんとう車の運転との関係が大きな話題になっていますが、てんかん発作が一定期間以上にわたって完全に抑制されていけば治療を受けていても車の運転は可能です。また、発作が睡眠中だけに生じる場合や、胃がむかむかするだけで意識や行動は保たれる場合などでも一定期間様子を見た上で運転が可能ですが、しかしながら、大型免許や二種免許の場合、運転可能となる条件はとても厳しくなります。個別の内容については警察や医師に確認が必要です。

薬を使っても抑えられない難治性のてんかんに対して、ケトン食療法や外科治療を行う事があります。ケトン食療法は、糖や炭水化物を減らして脂質を増やした食事により体内にケトン体を作り出す治療法で、主に小児に行います。外科治療は様々な発作に対して有効ですが、特に焦点発作の場合には、外科治療によって根治も期待できます。また、今後増える

であろう高齢者のてんかんは、脳血管障害と密接なリスクがあるため、これを予防することがてんかんにならないことにつながります。

■最後に。
てんかんを持つ患者さんは約100人に1人いるといわれており、決して特別な病気ではありません。抗てんかん薬を服用して、仕事をしながらてんかんに向き合う人もたくさんいらっしゃいます。一方で、発作のため就職の機会を失ったりすることも少なくありません。また、いまだに何か特別な病気と思われることがあるため、何か噂されると嫌だからと社会との関わりを躊躇される方もおられます。てんかんに対する社会の理解をもっと深めていく必要があります。



公益財団法人 今村総合病院
慈愛会

院長 帆北 修一

鹿児島市鴨池新町11-23 TEL:099-251-2221 FAX:099-250-6181



医療法人 加世田病院
和風会

脳神経外科専門 救急指定病院 脳神経外科 24時間対応

脳ドック バイブレーション アンギオ tPA対応

南さつま市加世田唐仁原1181番地(鳳凰高校前)

http://www.kaseda-hp.jp/ TEL(0993) 53-6300(代)

脳神経外科・消化器内科・外科・放射線科・リハ科



医療法人 敬親会
豊島病院

鹿児島市下荒田3-27-1 (代)099-253-0317